

趣 意 書

特定非営利活動法人社叢学会は、平成 14 年(2002)五月、鎮守の森を始めとする社寺林、塚の木立、ウタキなどについて、関連する諸学の垣根を取り払って調査を進め、地域に密着した新しい学問の創造と社叢の保存を目指して設立された。

おりしも平成 17 年(2005)3月から半年のあいだ、「自然の叡智」をテーマとした新しい文化・文明の創造を目指して、「2005 年日本国際博覧会」(略称「愛知万博」・愛称「愛・地球博」)が開催される。

当学会は、「人間は自然の一部であるという原点に立ち、(中略)自然と調和する豊かさを提唱する」という、この博覧会の趣旨に鑑み、人々がそれぞれの土地で、厳しく、しかし美しい自然と積極的に共生しようと考えて創ってきた「鎮守の森」の再現を柱にした出展参加を決意した。

今回、「環境」を前面に打ち出した国際博覧会会場に、「森に生きる日本文化」を主題にして各種の企画を出展することは、自らのアイデンティティを喪失しつつある多くの現代人に、自然を基軸とすることへの深い自覚をうながすであろう。また、これを機会に、身近な「森の文化」である社叢に人々が関心を持つことによって、生活環境に緑の恵みを快復することもできるであろう。さらに、地域環境の悪化に悩む世界の国々に対しても、環境学的な指針を提示することができるのではないだろうか。

こうした思いを胸に、特定非営利活動法人社叢学会は、「2005 年日本国際博覧会」に出展参加することによって、全地球生命の構成員すべての持続可能な共生という、21 世紀に生きる全人類に課せられた課題の解決に貢献したいと思う。

平成 16 年 5 月

特定非営利活動法人社叢学会